

# 国内外の動向

---

平成30年12月13日

人間中心のAI社会原則検討会議

事務局



# 国際的な議論の動向

## OECD AIに関する専門家会合【2018年(平成30年)9月～】

経済協力開発機構(OECD)は、AIに関する専門家会合(AIGO: AI expert Group at the OECD)を設置。  
2019年のAIに関する理事会勧告策定を視野に入れ、AIの信頼構築と社会実装を促すための原則(To Foster Trust in and adoption of AI)の絞込み等を行う。

AIGOはOECDの加盟国から派遣された産学民官の専門家等で構成。日本からは東大・須藤教授、中大・平野教授が参加(議長: Wonki Minデジタル経済政策委員会議長)。

原則の内容については、第2回会合時点において、i) 一般原則、ii) 政策担当者向けの原則、の二段階構成を検討。今後これらに加えて実務者向けのガイダンスを作成する方向で検討予定。

今後、第3回会合(2019年1月)、第4回会合(2019年2月)を開催し、原則案の内容を詰めていく予定。

## OECD デジタル経済専門家委員会(CDEP)【2018年(平成30年)11月14-16日】

OECDは、11月14～16日にデジタル経済政策委員会(CDEP)を開催。日本からは、中大・実積教授(CDEP副議長)、総務省、経済産業省等が参加。AIの取組については以下の項目について議論が行われた。

- AIに関する分析レポート: 事務局から分析レポートの概要説明が行われ、各国から内容を歓迎する発言。成果物については書面手続きを経て秘匿解除することに合意(2019年早期に秘匿解除される見込み)。
- 理事会勧告策定に向けた取組: 事務局からAIGOの検討状況や今後の取組(予定)について説明。2019年7月会合及び11月会合において理事会勧告の内容をCDEPで議論。AIGOの第4回会合終了後に理事会勧告の原案作成に係るサブグループを設置予定。
- AI政策に関するオブザーバトリー: 事務局から加盟国等に対してオブザーバトリーの取組に関する質問票を配布。各国からの意見や提案も踏まえ、2019年の設立(予定)に向けて検討を進めていく。

# 国際的な議論の動向

## G7 マルチステークホルダ会合 [2018年(平成30年) 12月6日]

### 会合の概要

- (1) 日時・場所 : 2018年12月6日(木) モントリオール(カナダ)
- (2) 参加者 : G7各国の産学官・市民社会におけるAI専門家等
- (3) 経緯 :

2018年3月のG7イノベーション大臣会合における議長サマリの附属書(AIに関するG7イノベーション大臣の声明)において、同年秋にカナダ主催でAIに関するマルチステークホルダ会合を開催することにつき合意。

### 会合の結果

- (1) G7各国は、『社会のためのAI』、『イノベーションの解放』、『AIにおけるアカウントビリティ』、『仕事の未来』のうち一つのテーマを担当し、ディスカッションペーパーを作成の上、ブレイクアウトセッションにて会合の参加者(マルチステークホルダ)とディスカッションを実施。  
日本は、カナダとともに『AIにおけるアカウントビリティ』を担当。共同議長は、日本側は堀浩一 東京大学大学院工学系研究科教授、カナダ側はIan Kerr オタワ大学教授、Jason Millar オタワ大学准教授。
- (2) 『AIにおけるアカウントビリティ』のセッションでは、「アカウントビリティを信頼に結びつける社会システムが重要」、「抽象的な原則やガイドラインと具体策との橋渡しが重要」、「プライバシーや公平性などについて様々なトレードオフを考慮していく必要」、「AIのプロセスのアカウントビリティと結果のアカウントビリティの両方についてバランスよく考えていくべき」、「AIに対する過剰な信頼も過小な信頼も望ましくなく、適切なレベルの信頼を醸成することが大切」といった意見がなされ、全体会合にて共同議長より報告。
- (3) 会合にはトルドー首相が出席され、「ケベック州に拠点を置く”the AI-Powered Supply Chains Supercluster (SCALE.AI)”に最大2億3千万ドルを投資し、1万6千人以上の雇用創出や10年間で160億ドル以上の経済効果をもたらすことを見込む」、「カナダとフランスは、人工知能の研究結果を理解し共有するための国際的なパネルを創設する」等を表明。

# 国際的な議論の動向

ユネスコ( FORUM ON ARTIFICIAL INTELLIGENCE IN AFRICA ) 【2018年(平成30年) 12月12、13日】

## 会合の概要

(1) 日時:平成30年12月12日～13日

(2) 場所: Mohammed VI ポリテクニク(Polytechnic University) ベンゲリル, モロッコ(マラケシュ近郊)

## (3) 概要

アフリカにおけるAIの課題や可能性, 将来性, キャパシティ・ビルディング等幅広いテーマを設定して議論を行う。

## (4) 出席予定者

アズレー・ユネスコ事務局長

シャクシュク・情報・コミュニケーション局事務局長補(ユネスコにおいて「AIの倫理」を担当)

マトコ・プライオリティアフリカ・対外関係部局事務局長補

アムザジ・モロッコ国民教育・職業訓練・高等教育・科学研究大臣

ベン・アブデルカベル・モロッコ首相付行政改革・公務員担当特命大臣等アフリカの閣僚級の参加も予定。

## 出席予定の日本人有識者

武田晴夫 日立製作所理事 プレナリーセッション:「アフリカにおけるAI:課題と可能性」

内藤智之 JICA国際協力専門員 プレナリーセッション:「AI, アフリカの若年層の能力開発のための梃子」

江川尚志 NEC技術イノベーション戦略本部 標準化推進部シニアエキスパート

プレナリーセッション:「アフリカにおける倫理とAI:何が問題なのか」